

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495100040	事業の開始年月日	平成18年5月1日	
		指定年月日	平成18年5月1日	
法人名	特定非営利活動法人 楽			
事業所名	特定非営利活動法人 楽 ひつじ雲			
所在地	(〒 212 - 0011) 川崎市幸区幸町4 - 18 - 8			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	4名	
		定員計	名	
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果 市町村受理日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご本人を中心に・・・ いつまでも自分の力で、歩けるようお手伝いします。 食事は手作り。美味しく食べて、体力維持ができるようお手伝いします。 自宅で暮らし続けたいと願うご家族と話し合い、 訪問という形を多くとって利用者本人・ご家族を視野に入れた支援を行っています。 地域の方々との相互協働ができるよう力を入れています。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年12月3日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 小規模多機能型居宅介護事業所ひつじ雲は、JR川崎駅西口から徒歩10分ほどの、店舗や住宅などが混在する市街地の一角にある。9年間運営した近隣の旧事業所から移転し、6月から当地での運営を開始した。建物は当初より小規模多機能型居宅介護事業所として設計、建設されており、長年の経験を反映している。玄関の車いす用のスロープの設置、転倒の反動を吸収する柔らかい床材の使用、立ち上がり動作を補助するトイレの採用、高さ調節が可能な洗面台の設置、床暖房の採用などである。特に入浴については、チェアスライドインバスシステムを導入し、重度の利用者でも職員の負担なく、湯舟に浸かることを可能としている。また、リビングの奥に掘りごたつを施した6畳の畳部屋を設け、利用者職員が共に過ごす憩いの空間としている。</p> <p>【ゆるぎない理念の共有と実践】 「人格の尊重、生活の継続性、社会参加、自主性の向上」法人開設時に掲げられた理念は、「自宅より良く暮らし続けたい」と願う利用者及び利用者家族への支援のあり方を表し、ゆるぎないものとなっている。職員は、利用者のこの思いに寄り添い、理念を共有している。ほとんどが介護福祉士の有資格者である介護職員は、介護計画書の下に、個別援助サービス計画書を作成し、利用者がその人らしい在宅、地域生活を継続できるよう支えている。サービス担当者会議には、家族も参加し、同計画書に意向が取り入れられている。訪問サービスは、現在、利用登録21名の利用者に対し、月間300回を優に超える訪問実績となっており、非常に手厚い。食事は「体力維持」と位置づけし、そのために、手づくりし、おいしく、しっかり食べてもらう。食事、おやつ作りのお手伝い、後片付け、習字で献立表を書くなど、役割を持っている利用者も多い。</p> <p>長年培ってきた地域との関係も良好であり、地域住民より移転先の候補地の紹介も多数あった。また、法人の地域交流施設「ひこうき雲」での茶話会、地域包括支援センターと共同で開かれる、町内会館を借りての食事会・介護相談会など、地域住民と事業所が双方向で交流し、利用者の地域生活を支える体制を構築している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ひつじ雲
ユニット名	

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「人格の尊重」「生活の継続性」「社会参加」「自主性の向上」、法人設立時に作り上げた理念がある。その理念を基に職員間で話し合い、様々なケースを支援している。</p>	<p>4項目からなる利用者の在宅生活を支えるあり方を理念とし、職員は、利用者の地域生活の継続支援と、地域との関係強化を図っている。職員会議などを通じ、再確認し、職員は、理念を共有している。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>神社の祭礼の準備から、当日の神輿の担ぎ手にと、町内の一員として参加している。利用者も活用できる「ひこうき雲」を設立し、地域の方に開放している。</p>	<p>町内会に加入し、地域の神社の祭りなどに参加している。法人の地域交流施設「ひこうき雲」での茶話会、町内会館を借りての食事会・介護相談会で利用者、家族、職員が地域住民と交流している。散歩、買物の際は、利用者、職員が地域住民と、気楽に挨拶を交わす関係を築いている。</p>	<p>移転を機に、良好な地域との関係を更に推し進め、地域住民と事業所の双方向の協力体制、ボランティアの受け入れなどについて、具体的取り組みを期待します。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>法人が設立した地域交流の場「ひこうき雲」で、茶話会を定期的に行っている。町内会館ををお借りして、月に1度食事会を行い、地域包括と共同し介護相談など出来る場になっている。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1度のペースで開催している。地域で暮らし続ける事の可能性など、議題となる事が多い。地域活動の実践を報告し、意見を頂いている。</p>	<p>区の担当職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族の参加の下、2ヶ月に1回開催している。運営報告、情報交換、質疑応答のほか、外部評価の結果もこの場で報告、討議され、事業所運営に反映している。理事長より、介護情報・事例などの話をする事もある。</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>推進会議に参加頂いている。事例の相談や、地域活動への理解や協力を頂いている。</p>	<p>川崎市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の会員として市と連携し、同会を運営している。同会南部連絡会の、立ち上げ、研修企画の調整は、理事長がこの任に当たっている。また、市主催の研修に参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止を職員会議の議題にするなど、職員間で共有するようにしている。日中は玄関の鍵はかけず、外へ出たい方は、職員と一緒に行動している。</p>	<p>身体拘束はしないことを運営規定、重要事項説明書に明記し、実践している。事例を交えた研修を実施している。日中、玄関は施錠せず、外へ出たいそぶりの利用者には、職員と一緒に外に出ている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>当事業所では「虐待及び身体拘束は一切行わない」という方向で全員徹底し、マニュアルも配置している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加し、自立支援に対する理解を深め、実践している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用・解約に関しては十分に話し合いの時間を設けている。利用に際しては、見学や利用体験をして頂き、不安な気持ちが軽減できるように努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>送迎の時間や連絡帳などで、ご家族に気軽に意見を言って頂き、それに応えるようにしている。不安な気持ちが軽減できるように努めている。</p>	<p>訪問サービス時、送迎時、ケアマネジャー訪問時、連絡帳などで、意見要望を聞いている。運営推進会議、サービス担当者会議にも家族が参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議（月に一度）や、日々のミーティングで意見交換を常に行っている。</p>	<p>月に1度の職員会議などで、要望や意見を聴取している。また管理者は、日頃から気楽に相談できる雰囲気作りをし、意見や提案を積極的に聞いている。新事業所の設備、レイアウトには、玄関の車いす用のスロープの設置など、職員の意見が多く取り入れられている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>介護職員にとって働きやすい環境とは、利用者にとっても居心地の良い環境と捉えられる。新しいひつじ雲になり、余裕をもって行動できる環境になったのではないかと思う。給与水準等については、介護保険での収入の多くが職員給与にあてがわれているが、給与をアップ出来る事にまだ繋がっていない事を申しわけなく思っている。</p>		
13		<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場においては月1回の職員会議で事例の検討をしたり、職員に考え方の幅を広げることに力をいれている。研修の多くは、外部の研修であるが、実践と相まって、確実にケアの向上に繋がっていると思われる場面に出会う。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>楽が中心になって、小規模多機能事業所の質向上研修会を継続的に開催する。各施設同士の実習交流、外部の講師を呼んで、継続研修を3ヶ月間行う事になっている。それら进行评估し、26年度に繋がりたいと思っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始時は、まずは関係作りから行うようにしている。当面は、通いの場合職員と一緒に過ごす、訪問の場合は、2～3人の固定した職員が何う様にして、ニーズを汲み取るようにしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用相談の段階から、ご家族の思いを受けとめ、ひつじ雲として、どのように支援できるか、誠実に対応するようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービスの開始と同時進行で、必要としている事を把握していくよう努めている。必要であれば、他のサービスと連携している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>買い物やおやつ作りなど、日常的な事を一緒にして頂いている。ひつじ雲の中で役割を持っている方もいる。会話の中には、人生の先輩であると感じる場面がたくさんある。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ひつじ雲でのご様子をお伝えしたり、ご自宅での過ごし方を、家族に何うなどで、関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>送迎や散歩の時に、ご近所の方々と気軽に挨拶や会話が出来るように支援している。「茶話会」や「食事会」に参加し、交流をもったり、地域の行事に参加できる支援をしている。</p>	<p>ひこうき雲での茶話会、町内会館での食事会などに利用者が参加している。地域の老人会に参加する利用者には、送迎の支援をしている。地域での買い物、家族への年賀状、電話の取り次ぎなどの支援も行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お話が合う方同士、席を近くにしたり、自由に移動できるような働きかけをしている。職員が間に入る事で、関係性ができたり、利用者同士で楽しめるように環境作りをしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>過去に利用されていたご家族が、今でも立ち寄って下さることがある。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>アセスメントは、本人と家族、あるいは本人のみ、又は家族のみ等、様々な思いを把握するように努めている。日々のかかわりの中では、言葉や様子から思いを汲み取るようにしている。</p>	<p>日々の生活の中で、利用者の意向の把握に努めている。「私の気持ちシート」に記入し職員間で、共有している。意向を表すことが困難な利用者については、しぐさ、表情から読み取るなどして意向の把握に努めている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人や、ご家族からの聞き取りから、アセスメント表を作成している。また、日々の関わりの中で、観察した事を基に「私の姿シート」を作成しています。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>通いや訪問の時の様子。ご家族からの連絡帳やお話などで、状況を把握するように努めている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ライフサポートプランを採用し、利用者の生活にあった介護計画を作成している。個別援助計画は、介護職員が作成し、他職員も一緒に評価をし、ケアのあり方を検討している。</p>	<p>計画作成担当者が作成した介護計画書の下に、職員が個別援助サービス計画書を作成し個別ケアを推進している。サービス担当者会議は、家族も参加している。状況の変化に合わせて介護計画を見直している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の個別記録は、必ず記録している。状況の変化等は、適時ミーティングの課題として共有している。それを踏まえ支援内容の見直しなど随時行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の生活のリズムに合わせた送迎の時間設定、ひつじ雲への通い・泊りだけでなく、地域で暮らし続ける為の、自宅への訪問支援など多機能なサービスを提供している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徘徊の可能性のある方に対し、公共機関としてSOSネットワークへ登録。更にインフォーマルの部分では、近所の方々に、ひつじ雲への連絡をお願いしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望により、通院の支援を行っている。急変時などは、ご家族やかかりつけ医に連絡をとり、受診の指示を仰ぎ、対応している。	必要により、看護職員、介護職員が通院の支援をしている。家族対応の受診の場合でも、薬の情報など、必ず情報を共有している。歯科衛生士が週1回勤務しており、日常ケアをする職員と連携している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化などを観察し看護職員に伝えている。場合によっては、ご家族に受診を促している。また、必要に応じて看護職員が通院の付き添いを行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医師や院内のソーシャルワーカーと連絡をとり、情報交換を行っている。在宅生活を継続する為の支援の提案を行い、相談させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族と様々なタイミングで話合う機会を設けている。当事業所で出来る事、出来ない事を明確に伝え、医療や様々な関係者と連携をとるように努めている。</p>	<p>「緊急時対応同意書」を受け取り、急変時に備えている。重度化した場合の事業所の対応し得る範囲について説明し、家族と共有している。常に先を予測し、余裕を持った対応に努めている。自宅での看取りを、訪問サービスで支援した例も多い。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事業所内で、事故発生時に備えての研修を行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年2回実施している。地域の方々に、災害時の避難に協力を依頼している。</p>	<p>年2回の防災訓練を実施している。また、夜間想定訓練も実施している。飲料水、食料、必要備品を、3日分備蓄している。運営推進会議などを通じて、地域住民の協力を常に、呼びかけている。</p>	<p>移転を機に、新たな地域との協力体制を築き、消防署、地域住民の協力の下で防災訓練が実施されることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を尊重した対応をする事を方針としている。	理念の初めに「人格の尊重」を挙げ、その人らしさを支援している。炊事の手伝いなど、事業所内での役割を持った利用者も多い。接遇研修を実施している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要に応じ、個別対応を心がけている。その中で、ご本人の希望や、自己決定を尊重し、活動するようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて援助する体制をとっている。言葉での確認のみならず、体調の変化に合わせた過ごし方を支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や、化粧、整容の方法など、その方のこだわりや習慣を大切にしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が好きな方、片付けが得意な方、体調に合わせ楽しみながら、やりがいを感じていただけるよう支援している。感謝の言葉を伝え、皆で食べる事を楽しんでいる。	法人の栄養士のレシピにより、手づくりしている。食材は利用者と職員で買い出しに行くこともある。可能な利用者は調理、盛り付け、配膳、片付けなど出来る範囲での役割を持ち、手伝っている。職員も同じものを利用者と一緒に語らいながら、食べている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>確実に食事がとれるように、その方の状態にあった、軟らかさ、形状を工夫している。環境を整える事も含め配慮している。水分も体調維持の為に、重要であると方針付け、色々な飲み物で、対応している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食前の口腔体操、食後の口腔ケアを実施している。週に一度、歯科衛生士が勤務して、口腔内の状態の維持、改善に向けた取り組みをしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>職員が研修に参加し、理論を基に現場での実践に皆で取り組んでいる。トイレで排泄する為の、食事や、歩行など総体的に考えるようにしている。</p>	<p>トイレでの排泄を基本とし、ベッド上でのオムツ交換は、生じさせないことを原則としている。利用者個々に分析した排泄パターンを把握して、支援している。泊まりの利用者も、可能な方は昼間と同様にトイレ誘導を行っている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事や、水分をしっかりと摂って頂くことに加え、身体を動かす機会を作っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴をお誘いする時は、気持ちに配慮している。時間をおいてお誘いしたり、言葉かけを工夫し、入浴を楽しんで頂けるようにしている。</p>	<p>時間をかけ、ゆっくり入浴できるよう支援している。入浴を好まない利用者には、無理強いせず、時間や声かけする職員を変えて、入浴を促している。塩素濃度を測定し、お湯の入れ替えを実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中でも、体調や、ご本人の習慣に合わせて、横になる機会を持って頂いている。泊りの時も環境を整え、不安の無いように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬が処方された時は、説明書の複写を頂くなどして、情報を得ている。通い・訪問において服薬介助が必要な方は対応している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>その方の出来る事、好きな事を聞き出したり、あらたに関心が持てそうな事を提案している。楽しんで出来る場面作りをしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物や散歩など日常的に、外出の機会を作っている。一人ひとりの体調に合わせて、出かける場所の工夫をしている。地域の区や市の祭典、祭礼など可能なかぎり共に出かけている。</p>	<p>天候が良い日は、職員が付き添い、散歩や買い物を楽しんでいる。すれちがう人と利用者が気軽に声を掛け合ったり、商店で食材を購入するなど、地域交流の場でもある。地域の行事などにも積極的に出かけている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理ができる方、ご家族が了承している方は、外出先でコーヒーを飲んだり、日用品を買ったりする機会を支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を必要とするときには、支援する。 年末に、皆で手書きの年賀状を作って出している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年6月に移転したが、なじんだ家具を使い続けたり、季節感を感じていただくような配慮は継続している。	新築の事業所は、転倒の反動を吸収する柔らかい床材の使用など、ハード面を充実させた。台所とリビングはオープンで、調理の匂いやまな板をたたく音など五感に訴える構造である。旧事業所から馴染んだ家具、事務用品を持ち込み、利用者に環境が変わったことへの不安を感じさせないように配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室で静かにすごしたり、掘りごたつの部屋で、数人でくつろぎの時間を持つことができる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝室は、落ち着いて過ごせるように配慮している。普段使っているパジャマを持ってこられたり、心地良く過ごしていただくよう支援している。	泊まりの部屋は4室準備できる。泊まりの利用者は、お気に入りのパジャマなどを持参し、居心地よく過ごせる空間としている。旧事業所で使用していた机なども使用し、馴染んだ環境を作っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自宅で歩いて移動されるのと同じように、ひつじ雲でも同じような動作を支援している。安全に配慮して、二人介助で行う事もある。		